

小竹図書館 図書館利用者懇談会

1. 日時 令和4年10月29日(土) 10時半～12時
2. 場所 小竹図書館 2階 会議室
3. 出席者 利用者 12名
図書館 4名
(小竹図書館長、副館長、業務責任者、テルウェル東日本マネージャー)
4. テーマ 「小竹図書館に望む、これからのサービスとは」
「これからの図書館構想」 令和5年4月にスタートする 10年間の図書館計画
 - ・理念：世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠点
 - ・目指す10年後の姿：
 - (1) 世界の情報、知識を届ける…世界の知と出会い、学びを豊かにする
 - (2) 練馬の文化を次世代に繋げ、発信する…練馬の文化を継承・発信する
 - (3) 交流が生まれ、新たな知が創造される…知が交わり、創造を生み出す
 - (4) デジタルを活用し、誰もが情報を得られる…情報へのアクセスを支援する
5. 配布資料
 - (1) 次第
 - (2) 図書館利用案内
 - (3) 令和4年版練馬区教育要覧(図書館部分抜粋)
 - (4) これからの図書館構想(令和4年11月策定予定)の概要
 - (5) 練馬区立図書館報「図書館だより」
 - (6) 小竹図書館広報紙「すてんどぐらす」
 - (7) 小竹図書館 中学生・高校生用図書館だより「たけのこ通信」
 - (8) 催しもの(11月～開催予定)のご案内
 - (9) アンケート用紙
6. 次第
 - (1) 小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶
 - (2) 図書館員紹介
 - (3) 参加者自己紹介
 - (4) 小竹図書館について
 - (5) 懇談
 - ・小竹図書館に望む、これからのサービスとは
 - ・これからの図書館構想
 - (6) 質疑応答

小竹図書館利用者懇談会 会議録

1 小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶

本日はお忙しい中、小竹図書館の利用者懇談会にお越しいただきまして、ありがとうございます。小竹図書館は平成 26 年度に指定管理者制度が導入され、私どもハートフルサポート共同事業体に図書館運営と施設管理を任せていただいています。ハートフルサポート共同事業体とは、NTT グループのテルウェル東日本と練馬区に本社をおく五十嵐商会からなる団体で、図書館運営はテルウェル東日本、施設管理は五十嵐商会が担当しております。

(館長・運営担当者の挨拶割愛)

2 図書館職員紹介

館長 副館長 業務責任者 テルウェル東日本(株)マネージャー

3 参加者自己紹介 (自己紹介部分割愛)

4 小竹図書館について

小竹図書館は平成 2 年 7 月、練馬区 8 番目の図書館として開館しました。今年で開館 32 年目になります。基本理念は「知るよこびをくらしの中に みんながつどう いこいの図書館」で、地域に根ざし、地域と積極的にかかわって、区民のだれもが、気軽に利用できる図書館を目指しています。

令和 4 年 3 月のデータですが、小竹図書館は、図書約 8 万 4600 冊、雑誌約 2400 冊、CD などの視聴覚資料 8500 点、計約 9 万 5500 点を所蔵しています。当館には保存書庫がないので、所蔵する資料はほぼ全部、皆様の目に触れるところに出ています。年間来館者数は昨年度約 20 万 6700 人。令和 2 年度は約 17 万 4200 人だったので、少しだけ入館者が戻ってきたのかなと感じています。ちなみに、まだコロナの影響がなかった元年度は 23 万 1000 人でしたので、やはり人がいっぱい集まる場所は怖いなと思う方もいらっしゃるようです。1 日平均の来館者数で見ると昨年度は平均 656 人、年間の個人貸出者数は約 12 万 1500 人です。コロナの影響がなかった、令和元年度は約 11 万 9000 人だったので、現在はそれを上回っています。年間の個人貸出点数は、昨年約 40 万 4400 点、こちらも令和元年度は 38 万 8000 点だったので、現在コロナ前の数字を超えました。このデータを分析すると、来館者は減ったが、借りていく本や CD などは増えた。つまり、一度に多数の資料を借りたり、家でパソコンなどから予約しておいて図書館に行く家族に予約本の引き取りを頼むなどのケースが増えているのではないかと思います。実際にカウンターにいと、家族分の予約本を引き取っていく利用者様の姿をよく見ます。また、図書館はイベントも通常通り開催しています。ただ今までは定員枠 30 人とかでしたが、今は 15～20 人程度にしています。

小竹図書館の特徴は 3 つの大学が集まる文教地区にあり、芸術を愛する方々も多いので、

特に芸術関係の図書やCDの収集に力を入れています。外国語の図書、雑誌、新聞の充実に取り組んでいますし、1階の絵本コーナーには、小竹町にお住まいだった絵本作家馬場のぼるさんの遺族の方から寄贈された絵本を集めた「馬場のぼるコーナー」があります。

さて、今年度、この懇談会の大きなテーマは、「小竹図書館に望むこれからのサービスとは」です。ただ漠然として感もあり、お話しづらいのではないかと思います。そこで、来年4月から始まる「これからの図書館構想」に沿って、みなさんのご意見をお聞きしたいと思います。公共図書館は、およそ10年に1度、長期計画を立てますが、その都度時代に即したものに刷新されています。練馬区では今年11月に策定して、来年4月から施行されることになっています。この図書館構想について、ご要望でもご意見でも結構ですので、ざくばらんにお話しただけでも幸いです。本日いただいた貴重なご意見は今後の催しものに反映させたり、将来に向けての図書館運営に活かしていきたいと思います。ただし、地域館一館ではやりづらい大掛かりなこと、例えば図書館システムを変えてほしいといったことは、区立図書館全体に関わる課題になりますので、11月19日(土)14:00~16:00に開催される光が丘図書館での懇談会にご出席いただいて、お話しただけますようお願いいたします。

5 懇談

- ・小竹図書館に望む、これからのサービスとは
- ・これからの図書館構想

図書館 さて、「これからの図書館構想」の基本理念は、「世界につながる 彩り豊かな知の情報拠点」です。これには4つの主な柱があり、1つが「世界の情報、知識を届ける」、2つ目が「練馬の文化を次世代に繋げ、発信する」、3つ目が「交流が生まれ、新たな知が創造される」、最後が「デジタルを活用し、誰もが情報を得られる」となっています。

前回の図書館ビジョンには、世界の情報・知識は触れていませんでしたし、デジタルについても入っていませんでした。つまり来年度4月からはこういったことにも注目して力を入れていこうという姿勢が鮮明に表れています。さて4つの柱について、アトランダムでも結構ですので、「私はこれについてこのように思う」といったご意見をぜひお聞かせください。と言っても最初はお話しづらいと思いますので、少し平たく説明させてください。

まず「世界の情報、知識を届ける」は、例えば海外赴任や海外ボランティアから戻ってきた方をお招きして、今世界で起こっていることや、その国の文化や習慣などのお話をしていただく講演会を開き、利用者の皆さまに聞いていただく。これも「世界の情報、知識を届ける」の一つだと思います。

「練馬の文化を次世代に繋げ、発信する」については、例えば、練馬はアニメの

まちとして有名なので、アニメの歴史を振り返るような講演会を開催するのも、それに当たると思います。

あと「交流が生まれ、新たな知が創造される」について。例えば図書館と子育てひろばのプレパさんが連携して、11月に「子育て相談会」を開催します。図書館には行っているが、プレパさんには行ったことがない赤ちゃんと保護者の方などに、赤ちゃんを遊ばせながら子育ての相談にのりますという内容のものです。もっともっと相談したいと思ったら、プレパさんをご案内します。地域包括支援センターさんともつながっていて、小竹図書館で認知症サポーター養成講座を定期的で開催しています。自分の親の老化はなかなか認めたくないの、いきなり地域包括支援センターに相談に行くのはとためらう人も少なくないのです。でもこの講座をきっかけに、親に介護認定を受けさせましたというお話も聞いています。図書館でのイベントということで敷居を低くし、その場にいたケアマネージャーさんと会話することで、「交流が生まれ」た結果だと思えます。

「デジタルを活用し、誰もが情報を得られる」は、昨今、急速に、世の中がデジタル化してきましたよね。当館にも、「これどうやったらいいんだ？」と、スマホを持って来られる方がいます。図書館ホームページにどうやって入ったらいいかと聞かれる方もいます。機種もさまざまですし、私たちもわからないことがあり、できる範囲でしかご説明できない。そんな折、東京都が高齢者のデジタル学習に力を入れることになり、当館でも都から専門家を派遣していただいて、相談会を開催することになりました。一人15分程度の相談会ですが、自分でスマホを操作してつまずいていたことが、その場で解消されます。スマホが操作できれば、家にいながら区立図書館に読みたい本があるかどうかを検索できますし、予約を入れることもできます。非常に便利になります。これも「デジタルを活用し、誰もが情報を得られる」ということに当たると思います。現在は、光熱費やクレジット会社の明細書などもデータで送られてくるようになり、高齢者にとっては大変な時代になりましたので、デジタルに強くなればストレスも軽減されるのではないのでしょうか。

さて、こういった4つの柱について、思いつくままで結構ですので、ぜひご意見を伺えたらと思います。

利用者 いつも本当にありがとうございます。先ほども、うちの保育士が絵本を探しにきておりました。

ちょうど先日、東京大学とポプラ社が絵本などの本の効能の研究発表をしましたが、アナログ絵本をいうのは効果があると言っていました。デジタルも、学習面やリテラシーの向上については同じぐらいだったりというのは、謳ったりされているようなんですが、一方で非認知能力と呼ばれるリテラシー以外の想像力を深めるところはアナログ絵本の方が良いと、研究結果としてぼつぼつわかっ

てきたそうです。その中でも子育ての中に、本とか絵本をどんどん取り入れた方がいいという意見がありまして、図書館で子育て支援の情報発信をすとか、子どもの発育を発信すとか、短期的に有効だろうと言われてます。まさに今プレパさんとやっていることが、意味があるのだ、と思いました。

私たちの保育園も子育ての支援をするような場所ですので、保育園に通っていないお子さんや地域の方に向けて情報発信していきたいと思ひます。また、図書館さんとご一緒させていただけたらいいな、と考えております

あと、いただいた図書館構想の資料がすごくきれいに整理されているなと思ひました。子どもたちの声も図書館運営に反映させられたらいいのかなと思ひます。やっぱり大人の声を施設の運営に反映されがちなので、声をあげにくい子どもたちの声もぜひ拾っていただけたらなと思ひます。あと、ここにも書いてある「商店街等と連携したまちライブラリーの実施」は、難しそうなことが書いてあるなと思ひました。

ちょうど明日、今掲示板にも貼らせていただいているんですが、公園づくりの勉強会を企画してござりまして、近隣の八雲公園の隣りを拡張する予定になっていて、行政に先んじて地域で勉強会を企画してござります。南池袋公園という、池袋のほど近くきれいになったところがあるんですが、鳥箱みたいな感じの書架があつて、それを開けると豊島区の図書館の選書した本が置いてあつたりするんですね。そういった、図書館さんの知恵を公園の方に置くと、遊びにきた子どもたちも絵本に親しめるのかなと思ひました。今後、八雲公園が広がるなかで一個アイデアとしていかかでしょうか。

最後に保育園の職員からのリクエストで、図書館の職員さんに出張でよみかせをしてもらえたらうれしいと話がありました。またご相談させていただければと思ひます。

図書館 言つていただければ、日程をご相談して参ります。

利用者 忙しいとは思ひますが、またご相談させていただければと思ひます。あと、私の息子が3歳で、妻が絵本にはまつていて、図書館でいただける除籍の本がすごく助かつていて言つていました。リサイクル本をいただける企画を定期的にやつていただけているので助かります。ありがとうございます。

図書館 今、ご意見が出たので紹介しますが、今年度も本のリサイクルフェアを11月12日と、13日の2日間、開催します。会場は、この会議室です。絵本とか雑誌、図書館で役目が終わった本、寄贈いただいた本で図書館では受け入れられなかつた本を出します。面白い本に出会えるかもしれないので、ぜひお越しください。

他にお気づきの点はありますか？

利用者 そちらの保育園でお散歩コースつてありますよね？ ここにも時々、ちびちゃんたちは来てますか？

- 利用者** ええ来られていますよ。図書館で絵本を一緒に選んだりとかしています。
- 利用者** やっぱり、小さい頃から図書館に親しんでいると、図書館の大切さが伝わっていると思いますね。
- 図書館** いま近隣の小学校で、「この町きりり」という授業があって、児童がグループごとに町を歩いて、例えば、交番や保育園などを訪問しながら、町のすてきなところを探しましょうという趣旨でやっているそうです。図書館にも来て、児童がいろいろ質問したり、館内を見学したりして帰っていきます。後日、そこで見つけた、町のすばらしいところを大きな画用紙に書いて持ってこられて、図書館でも展示していました。良い試みだと思います。最近はやり始めたようです。
- 利用者** うちのギャラリーにも、ちびちゃんがお散歩で来ます。陶芸教室を見て行って、自分が気に入るとお父さんとお母さんを連れてくるんです。3歳児か4歳児だと思うのですが、ここへ「もう一回来たい」といって、大人を引っ張って来てくれる。それは素晴らしいことだと思います。
- 図書館** 素晴らしいですね。ギャラリーというと敷居が高くて、気軽に入りにくいと思われがちですが、子どもの頃から出入りしていると、芸術を見る目も養われる。オープンにして見せていただけるのは、いいことだと思います。この町には、ギャラリーも多いですね。
- 利用者** 結構増えてきましたね。子どもたちの情操教育っていう意味でもいいですね。
- 利用者** つながりということだと、旭丘中学校のおたより通信、『旭中通信』を毎月いただいています。その中で図書館に関係するかな、と思う記事があったので持ってきました。こういうことをやっているんです、ビブリオバトル。一人5分の持ち時間で、自分のおすすめしたい本を持ち寄って書評を述べ合い、それでバトルをするらしいですね。自分の推薦する本をアピールするんでしょうね。行ってないので、わかりませんが。それでチャンピオンを決めるみたいです。観客とかが選んで決めるようです。図書館の運営に関係があるのかわかりませんが、面白いかなと思います。熱を入れて推薦して、しかも中学生の、ちょうど本を読み始めるような年代の人たちが、こういうことをやっているんだと、私はびっくりしました。
- 図書館** ビブリオバトルは、各地の図書館でも増えてきて、小竹図書館でも今年の夏、「ビブリオバトル」ではなく「ビブリオトーク」として開催しました。バトルだと、最後にチャンプ本を決めないといけないので、トークで終わらせようということで、職場体験の中学生を中心にやりました。それまでは、話をしても「いいえ」とか「はい」としか言わなかった生徒が、自分の好きな本になると熱心にしゃべってくれて面白かったです。今後は、いろんな人を呼んでやっても面白いなと考えているところです。
- 利用者** 敬老館さんで、今年か去年に、Zoomの教室がありまして、参加しました。結構人が集いました。敬老館ですから、私みたいな年取った人ばかりですが、みんなそれ

に興味を持つというのはすごいじゃないですか。一生懸命学ぶんです。隣のおじいさんと一緒に、職員さんにアクセスしてみるんですけど、自分の顔が映らなくて、最初はあせりしましたが、熱心にやったところ、最後は映りました。やっぱり年寄りでも世の中の新しい動きに興味があり、その動きに遅れてはならじとっていて、興味があることはあるんです。

さきほどのスマホ教室など、新しい動きですよ。他にも、図書館構想に書いてある電子図書ですとか。電子図書以外にも、オーディオブックとかそういうのも、売られてはいるんですけど、とっつきがつかめないのです。わからないまま放っておくのもなんだか……。年寄りだから、だんだん機会も少なくなるから、知りたいなって気持ちはあるんじゃないでしょうか。私もそうでした。こういう機会があればと思います。敬老館さんと一緒にやってもらうのもいいかもしれませんね。

やっぱり今は、デジタル化していくと、図書館の物（ぶつ）としての本というよりも、物（ぶつ）でもないけれど、デジタルとして流れてくる情報は捕まえてかないと消えてしまう。どうやって捕まえていくのか、図書館さんの大きなテーマになるかもしれませんが、本や紙として印刷された情報だけではない、情報をどういうふう発信して、どういうふう提供するかというのは、これからどんどん重要になってくると思うんですよ。データ量がすごいですから、インターネットのデータ量なんて、図書館の何万冊の本を凌駕するものが流れている。どんどん流れて消えて、減っていくんですよ。そういったものをどうするのかっていうのは、非常に難しいとは思いますが、大事なこともかもしれません。情報が多すぎると感じることもあります。あまりにも情報が多すぎて、処理しきれないという気がします。

雑駁（ざっぱく）ですが、感じたことを話しました。

図書館 情報が多すぎて、情報の海で溺れそうです。私も通勤時などにスマホを見る癖があり、いろんな情報を集めてしまいます。図書館のデジタル化や、デジタルアーカイブ化について、考えておりました。ただ、まだまだ電子図書は値が張りますね。紙の書籍の2倍～3倍の価格になります。また永久に所蔵できるかというところでもなくて、5年だけ使えるとか今年だけとか、出版社や作家との契約によっていろいろ異なるようです。デジタル図書については、今のところマンガの方が多くて、書籍の方が少ないのです。ぼつぼつと公共図書館でも入れておられるようです。

さて、電子図書として売られているものだけではなく、例えば小竹図書館にある古い地図をデジタルアーカイブして残すとか、あるいは講演会をデジタルアーカイブ化して、残すのはどうかということも考えています。

夏に、高齢者の方に来ていただいて、児童に戦争体験を語っていただくイベントを毎年開催していますが、今年初めてデジタルアーカイブ化にチャレンジしました。今、編集作業中です。今回は武蔵大学の映画研究会の人に手伝っていただきました。地域には日芸の映画学科なら専門家がいらっしゃると思いますので、もっと

もっと皆さんとつながって、教えていただければと思っています。

数年前に開催した藤田嗣治の美術講座は、利用者さまのご協力で講師に来ていただいたのですが、参加したい人が多くて、すぐに定員枠に達しました。やっぱり藤田嗣治は町内に住んでいたんだという話になって盛り上がりましたが、会場は30人ぐらいしか入れませんでしたので、参加できなかった方には申し訳ない思いがしました。デジタルアーカイブにして、いつでも見ることができたら良かったのですが。デジタル化は難しい面もありますが、私たちも勉強しながらちょっとずつ進めていければと思っています。

利用者 一言だけ。私の場合デジタル図書を一度買ったけれど、あんまり使い勝手がよくなくて、それからあんまり使っていません。さっきおしゃっていた、アーカイブの、掘り起こしのことなんです。昔の地図だとか。そちらがすごく重要だと思います。

練馬区にも、ふるさと文化館があって、そこでは写真を提供してくれるんです。今回それを使って、町会の文化祭で展示しようと思っています。たくさんの写真から、この町に必要な写真をチョイスして、うまくデザインして貼り付ける作業は、こちらでやらないといけないのですがね。掘り起こすことは重要だなと文化展を通して思いました。

江古田駅近くの千川通りは、昔は正真正銘、川が流れていました。上水ですから、飲める水です。でも、今は暗渠化しているから全然ありません。そんなこと多分、知っている人は少ないと思います。地図だとかで発掘するしかなくて。昔はこういうところに川が流れて、桜の並木があって、住みやすい家があった、ということが記憶として残ることは、非常に重要なのかなと思います。アーカイブの方が、私的にはいいなと思います。

前に、江古田市場の方が、ここで講演会をするかもしれないと聞いていましたけれど。

図書館 コロナになってしまって……。

利用者 そういう話も聞きたいなと思います。昔の市場はどんな風に運営して、どんなお客さんが来て、その時の町の様子や店はどんなものがあったのか、そんなことを聞きたいなと思います。新しいことばかりではなくて。

利用者 千川通り覚えてます。子どもの頃ね。川があったってことね。

図書館 地図は、町会さんの文化祭に行ったとき、古い住宅地図が貼ってあるのを見つけて、デジタルアーカイブ化させてもらえればなど。あとの図書館にも、母が昔ここに住んでいたらしいので、どこに住んでいたのか探したい、とか言って来られる方がいます。また、昔この町に住んでいて、そこに美容院があって、その人にごくお世話になってなどと聞くことがあります。

図書館 住宅地図は、当館にあるのは、3年分保存しています。練馬区にあるのは――。

利用者 練馬区は私、調べました。昭和58年くらいから住宅地図はありますが、それ以前はありません。破棄したようです。貸出はできないし、読むだけという形です。コピーもとれません。傷むからだそうです。「写真で撮るならいいですか？」と許可を取り、別室で自分のカメラで撮りました。うまくやらないと歪んじゃうんですが、それしか方法がないのです。

国会図書館にもほとんどないみたいですよ。国会図書館ですら。だから、地図はほとんどないですね。昔の住宅地図があると面白いです。図書として面白いです、住宅地図は。どんなお店があった、この町のここを曲がったら、何々さんでしたとかね。面白いです。地図と昔の写真はないですね。ですから、あったら貴重だから保存した方がいいと思います。

利用者 今、お話があった地図の件は、館長の立場としては、レファレンス扱いになるんですか？ 古い地図を見たいという要望は、レファレンスになるのでしょうか？

図書館 レファレンスになりますね。持っている館を探して紹介したり。うちにも少し、地域資料があるので、それに近い本を探したりして紹介したりします。

利用者 レファレンスと言いましたけれど、資料の相談をして、それに対しての解決策を図書館の職員の方たちに示していただいて、そういったやりとりをレファレンスと言います。私は図書館の力はレファレンスがすごく大事だと思うんですね。たとえば、この図書館がどういうことに力があるかを、外に示していただけたら、それを求めて、研究資料を求めて来られる方もいるんじゃないかなと思います。

例えば稲荷山図書館は、小さい図書館ですが、そこは昆虫図書館と呼ばれていて、そこは昆虫の標本とか資料がたくさんある図書館なんですね。一度も行ったことはないんですけど。そうするとそこに昆虫の資料を求めて、大人も、子供の夏休みの宿題にも行きます。そこで図書館で、解決すれば本を借りていくと思いますし、解決しなかったらカウンターで、今こういう資料を求めていますという、職員の方がこれはいかがですか、他の図書館から取り寄せましょうかと、案内していただきます。

地域交流もそうですが、知識の交流としてレファレンスの力を図書館それぞれが持ち合うのが、これから大事になっていくのじゃないかと思います。そうしたら、先ほどおっしゃっていたアーカイブのことも、この図書館限定ではなくて、広く、ここが持ってないけど、全然違うところから出てきたとか、図書館を通してそういうやりとりができるようになっていくのではないのかなと思いました。

図書館 レファレンス力は、その図書館の職員のスキルといえますね。なかなか難しいところはありますが、私たちも精一杯のことはやらせていただこうと思います。

さて、高齢者の団体施設さんはいかがですか？

利用者 私どもの施設では、実は小竹図書館と連携させていただいて、お子さまへの絵本のよみきかせ講座を図書館の職員さんから教えてもらっています。高齢者でボラ

ンティアしたいとか、お孫さんによみきかせしたいとかいう人を募って、一からよみきかせを学ぶので、それがきっかけでプレパ広場さんやりっこう学童さんですとか、併設の保育園さんや、近隣の保育園幼稚園でよみきかせをしています。高齢者が絵本について学び、地域の子どもたちによみきかせをする、交流する、どんどんつながりが広がっていくということを感じています。最初のころの成果発表のためのよみきかせ講座は、対象が幼稚園や保育園の子どもだったんですが、今それが広がって、少し年齢の高い学童クラブの小学生を対象にするまでになりました。一時コロナで、まったく保育園で活動できなくなったときに、敬老館内で学んだ高齢者が、ほかの高齢者に対してよみきかせをしたことがあります。今もまだ続いているんですが、すごく好評です。アナログの絵本は、教育にもいいという声を聞きました。デジタルが進む中で、アナログでの交流は世代の分け隔てなく、すごくいいことなんだな、と肌で感じています。今後も読み合う聞き合う機会が続いていけば、高齢者のマンパワーが地域貢献につながるし、それを聞いた子どもたちも高齢者と触れ合ういいきっかけになるんじゃないかなと思います。そういうアナログでの交流の場をまた大事にしていだければと思います。

図書館 敬老館さんとのよみきかせ講座は、最初は当館から敬老館に行って、敬老館を利用する高齢者の方に絵本を読もうという企画だったのですが。敬老館さんと打ち合わせをする中で、それだけだったら高齢者が受け身になってしまう、高齢者はもっと自分が人の役に立つと思いたい、世間や地域で活躍することで元気になるのだから、よみきかせのコツを教えてくださいと言われて、企画を練り直しました。毎年4回～5回の連続講座をやっている、そこを卒業された方がブックブック栄町をいうボランティア団体を作られ、その団体がいろんなところによみきかせに行くという流れになっています。中には、よみきかせにすっかりはまって、生きがいになったという話も聞いてます。メンバーの方が子どもの本によみきかせの方法の本を借りていかれたり、みなさんとても熱心だったりするので、こちらにも刺激を受けています。

さて、ドレミ文庫が作っていらっしゃる布の絵本も、子どもだけではなく、障害のある方の癒しになっていると聞いていますが、そのあたりはどのように感じていらっしゃいますか？

利用者 できるだけ布のあたたかさと、あとボタン掛けなど、指を使って何かができるような、作る側にしてみれば「あそび」と言っているのですが、そういうものを取り入れたもの、そして全体の雰囲気を損なわないようにと工夫を凝らして、制作しています。紙の本では味わえない、何か思いが伝わればいいなと、素人ながら考えながらやっています。

図書館 そうですね、そういったアナログの、温かいものも残していきたいと思います。もっといろんな方々に布の絵本知っていただいて、活用していただきたい。

ところで、ゴミの回収日に古い写真が捨てられているのをこれまで何回か見たことがあるのですが、すごくもったいないと思いました。持ち主が亡くなられて保管しておけなくなって、捨てられたのかもしれませんが、写真の中には、その地域の昔の建物や風景が映っていたりするわけでしょう？ 今は個人情報の問題があって、難しい面もありますが、個人写真もある種、貴重な文化遺産じゃないかなと思ったりしてしまいます。

少し前に江古田駅で写真展をやりましたよね？ 個人の方の写真をパネルにして展示していました。ああいうのを図書館でもできたらいいなと考えたりしていますが、いかがでしょうか。

利用者 それに似たのを町会の文化祭で、今回やろうと思っています。練馬区で提供していただいた、古い写真は江古田駅近辺が多いんですよ。小竹町って、商店街もないし、大きくて有名な建物もないから写真に残ってないんですね。ただ、駅の周りの風景は、練馬区に写真で残っていました。それをいただき、貼り付けます。すごい数が少ないです。館長がおっしゃるように捨てられている風景写真、そういったものも本当は貴重なんだろうけどね、昔あんな建物があつたとか。江古田の駅前も様変わりしていますし、昔の駅の様子って、みんな完全に忘れちゃってると思います。マクドナルドの前、なんの店があつたのかというと、ほとんどの人は覚えてないし。昔の写真を見るといろいろ想起され、いろんな思い出話が出てきたりするんじゃないかと。

利用者 小竹町会の文化祭はいつですか？

利用者 11月13日です。

利用者 小竹町の会館でやるんですよね。私は、陶芸をちょこっと出します。生徒さんの作品とかも。

図書館 図書館も出します。

利用者 ぜひ、どうぞ。

図書館 先ほどの写真の話ですが、町会に入っていらっしゃる方にも募ったのでしょうか？ 古い写真を貸していただけませんか？と考えたりしているのですけれど。

利用者 前にやったんですが、昔の写真ってみんな残ってないんですよ。ましてや、風景の写真はまずないです。大体、子どもの七五三や、家族の集まった写真だったり、きをつけの写真だったり。昔はカメラも高かったですし、フィルムなので残っていないんですよ。ですから、たまたま町の風景に興味がある人がいれば、撮っていたのでしょうかけれども、昔の時代のことです。まちの風景を悠長に撮っている人などはいなくて、残っている写真といえば、子どもがご入学したときの写真とか七五三、結婚式の写真とかですよ。今みたいにデジタルでパッパッと、200枚300枚もの写真を撮るような時代じゃなかったですしね。

- 図書館** 昔の写真から風俗とか、その時代の流行がわかりますよね？
- 利用者** わかります。着ているものでわかります。化粧とか。
- 図書館** まだ、そんなに多くはないんですけど、図書館で高齢者の方の認知症予防として、昔の写真を見てもらって、何の写真でしょうか？と話し合うイベントなどを行っているところがあるんです。高齢者の方は、現在の情報は覚えにくくなっていても、昔のことはとても鮮明に覚えてらっしゃることが多くて、お話が盛り上がりたりするそうです。当館でもそんな講座があってもいいかなと考えたりしています。
- 利用者** 昨日食べたのは忘れていますが、昔食べて美味しかったおもちは覚えています(笑)。
- 図書館** できたらそんなこともしたいと思います。
子どもの施設さんはどうですか？ お子さんを見ていらして。4つの柱は、どのように感じられますか？
- 利用者** 図書館さんに行ってきたよ、って話をしながら、こちらにやってくる方は結構いらっしゃいますね。ブックスタートから始まる方はかなり多いので、図書館さんに行かれている率はすごく高いなあと、いつも思っています。
一方で、本を破いてしまう、赤ちゃんは触りたいから触って破いてしまうのですが、保護者はそれが怖くてという話をされることがあります。そこはデジタルが入り口としてはありかなと思います。布の絵本は貸出ししているんだよ、って話をすると、「よだれが……」って話を聞くので、そのへんの周知があると、もっと密に図書館を利用しやすくなるかなと思いました。あと、私たち大人が、大人に絵本をよみかせることがありまして、それが癒しになると聞くので、大人の癒しのための絵本の紹介もあると素敵かなと思います。
- 図書館** 大人がというと、子育て中の方に読むということですか？
- 利用者** そうです。
- 図書館** 練馬の文化を継承・発信するのは、なかなか難しいです。いろいろお話しさせていただくなかで、発掘したこともあります。それこそ藤田嗣治さんのことであつたりとか。馬場のぼる氏のご家族が近隣にいらっしゃることとか。地域とのつながりは大切だと思います。もう忘れてしまうこともある中で、「ああ、そういえば」ということが出てくることも多々ありますね。
- 利用者** 私、歴史学者の方から、文章と挿絵と古い本を預かっているのですが、こちらにお見せします。返そうと思ったんですけど。その前に、はい。意外とあるけど、しまっけてしまい、どう引っぱりだすか、難しいですね。
- 利用者** 前に館長に言ったかもしれませんが、興味があることがありまして。さぶろく四季の道のことなんです。小竹小学校と板橋の向原小学校のそばに大きな大型道路ができる予定だったけれど、地域住民にご意見いただいて、地下に道路を通して、人が歩けるようにと緑道にすることになった。国の道路計画に対して、地域住民が

結束して一緒に対応して、できた緑道って珍しいのかなと思います。子どもたちの校庭が狭くなるので反対されたり、事故が起こりやすくなるので危ないよと、声をあげたのかなと。どういう経緯だったのかなと気になっています。結構な思いがあって作ったのだと思います。石碑みたいのもあったりして。そこらへんの企画展があったりすると、すごくいいなと思いました。ご存知の方、いらっしゃるかもしれませんが……。

図書館 ご存知の方いらっしゃいますか？

利用者 今、面白い話を聞かせていただきました。ああ、そういうことだったんだと、今、気づきました。そういう地域資料は収集しないんですか？

図書館 地域資料の収集はしていますが、さぶろく四季の道に特化した資料は、ないかもしれません。

利用者 例えば今おっしゃったように、なくなった方が大事にしていたけど、次の息子さんやお嬢さんはいらないわってというような、その家にとってはゴミになってしまうけど、地域にとっては大切な歴史資料が出てきたときに、それはどこが保存するのか。それは町会の方が保存するのか？ それは大変ですよ？

そこで、資料の保存場所として図書館がすごく大事だなんて思うんですね。練馬の中で、あちこちの図書館に対して、できることはないかと行政が呼びかけているから、こんなことになっていると思うんですけど、練馬区の中央が保存するには大変だけれども、地域の中で、保存場所があったら集まってくるんじゃないかと。資料がお宅の中に眠っているんだなと思ったんですね。例えば仏壇の後ろから何かで出てきたと聞くことがあります。私の実体験ですけど、父が亡くなったときに、古い写真が、うちは大事に取ってあるんですけど、ちょっと人に見せたら、たまたま父が、予科練に入隊するときの写真があって、個人情報とかではなくて、歴史情報として、若者が教練場所に入っていったというような、うちも何枚もそういう写真があるんですけど、他の人に「とっておいてくださいね」って言われたんですよ。簡単に言われても、いつまでとっておけばいいのか。どこに持っていけばいいのかと。これはうちの問題ですけど、地域の中で昔出した町会の資料が束になって出てきたときに、ゴミに出すのはすごく簡単ですが、そしたらなくなってしまうので、どこか集合させる場所があればと思います。それが図書館のような知識のある集結場所が世話をしてくださったら、地域の方は参加するだろうなと思いました。

図書館 寄贈された資料については、図書館では受入れの基準というものがありますので、その基準を満たしていたら、中央館つまり光が丘図書館にこの本を受入れしたいという希望を出して審査してもらいます。また、既に区内で何冊も所蔵している本だったら、リサイクルに回す場合もあります。小竹図書館は保存書庫がないので、当館で所蔵したいなあと思っても物理的に無理で、保存書庫がある他館で保存し

てもらふことがあります。今お話に出た「持っていてと言われても困る」という場合ですが、戦争の資料を中心に集めている資料館がありますので、そちらでご相談される方法もあるかなと思います。

図書館 なかなか、物となると、大きな図書館でも持つておくのは厳しいですよ。持つてすれば歴史文化館みたいなのところだと思いますが、写真や町会の資料はすごく保存が難しく、デジタル化すればいいかというところとも一概に言えない。昔のCD-ROMなど、今は見られませんよね。メディアの変化によって変わってくるので、結局、生のものが残っていないと継承できない例もある。ただ、デジタルというものが出てきたことによって、保存しやすくなったとは思いますが。地域のものについては、町会誌や地域の小さな新聞など、地域の歴史資料になると思います。しかし、地域図書館といえどもそれらをすべて保存できる図書館は多くないだろうと思います。かさばりますし、どんどん劣化しますし。そういったものをデジタル化していくことが、今後の図書館の使命じゃないかなと思っています。

図書館 いろいろヒントをいただいてありがとうございます。時間との闘いということと、作業量もありますし、何を残して、何をあきらめるかという判断も大切だと思います。世代が代わって、前の人はずっと大切にしていたのに、次の人は「なにこれ」って思うことあるでしょう。前に同潤会保存会の方に、当館で講師をしていただいて講座を開催したことがあるのですが、小竹町内の近隣の方々の忘年会か何かの写真がスクリーンに映写されたら、参加者が食い入るように見られて、人物の服装を「あー、こんなだった」と、楽しんでおられたのが印象的でした。そういう写真があったら、話題が広がっていきますよね。

町会さんの文化祭は、みなさん見に行かれるのかなと思いますけど。

利用者 やってみたいとわからないですけどね。

利用者 高齢者の方は、どんどん旅立っていますので、急がないといけませんね。私もそうですけれど（笑）。

利用者 昭和50年代の写真でも、市場の買い物客はみんな和服でした。いわゆる買い物かごをさげて、買い物に来ていましたよ。そういう風景の写真もあります。

利用者 私の小学校の頃も、下駄履きでしたよ。

利用者 だから、洋服に変わってくるのはその後なんだろうね。全員が全員、和服ではないですけど、普通にお買い物をする方は和服でしたね。あんなのを見ると、ああそうだったのかなと。自分の母も、そうだったのかなと思いました。

利用者 サザエさんみたいな感じですか？

利用者 そうです、そうです。建物も平屋ですしね。

利用者 2階建てなんてなかったですね。

図書館 そういうのを見たら懐かしいですよ。写真を借りてこられたのは、ふるさと文化館ですか？

利用者 CDに落としてくれます。これとこれがほしいというと、CDに落としてくれます。後日行って、お金はCD代のみで、50円です。

図書館 何年か前、江古田駅の構内で、昔の写真を展示していたことがありましたよね。

利用者 聞いたのですが、あれは違う方ようです。区でやっている緑のまちづくりセンターに、話を持っていったら、資料はここにありますが、と案内してくれました。今も江古田の駅に貼ってありますよ。また新しい版が、また違う方の主催だと思います。

図書館 一般市民の方ですか？

利用者 そうじゃないかと思えますけどね。

図書館 ちょっと話がかかりますけど、江古田のまちの芸術祭を始められたきっかけは？ 今ではいろんな団体さんが参加されていますね。

利用者 最初は日芸の映像学科の男子学生が、町おこしというより、「まちにアート」という思いで始めたのです。大学の卒論として現実化させて、それをギャラリーさんが引き受けることになって。そのとき私は10年続けないとだめよと、住民として続けてほしいと言ったんです。途中でちょっといろいろありましたけど。

図書館 今年で3回目ですか？

利用者 そうです。学生さんがやめて、今はギャラリーさんが引き継いでますね。

図書館 だんだん参加されるお店も増えていきますよね。コロナ渦のなか大変だったのでは？

利用者 私は、後ろでこそこそやっているだけです。中心となっているギャラリーさんなんて、駆けずり回ってます。でも、そのおかげで、参加するお店も増えましたね。

図書館 江古田という町の名は、全国でも有名です。

利用者 でも、本当は江古田という町はなくて、旭丘か小竹町か栄町かです。江古田という地名はなくて、駅の名前だけ。

図書館 ないけれど、江古田という名前は、広く世の中に知られています。

利用者 中野区には江古田町があるんですよ。町会のことはこちらに聞いてください。

利用者 私も知りませんが、中野の江古田（えこた）は、微妙に濁りがついたり、つかなかったり。でも、江古田の駅の周りに江古田町ってないのは本当のことです。

利用者 私は小竹町なので、江古田のまちの芸術祭に入るのはどうかな、と最初思っていたのですが、ただ江古田町はないので。

図書館 ないのなら、逆に、誰でも入りやすいですよ。どの町の方でも入れるところがいい。こういう文化的活動は、みんなで盛り上げながら、知が交わり創造が生み出されるというものかもしれません。「人と人が出会って」、何か生まれる。ところで、「江古田のまちの芸術祭」は、今日から始まっていますよね。今年の来場者の見通しはいかがでしょう？

利用者 先ほどギャラリーさんから紹介があったように、最初のころの江古田のまちの芸術祭は、江古田ユニバースっていう学生さんが始めたことなんですね。ギャラリーさんが、「10年続けたら……」と言われましたが、やはり学生さんご自分の生活事情などがあって江古田から去ってしまい、8年間で終わってしまったのです。ところが、地域のお店の方々が、「ちょっともったいないよね」って話になって、また新たに実行委員会を作って開催したところ、1回目は19店舗、2回目は39店舗、今年の3回目が65企画に増えました。毎回倍々に増えていますので、そういう意味では、ばらばらだった地域の町の商店の人が、みんなで話し合いをやったり、知らなかった人と出会ったりして、人が人を呼ぶ形で、だんだん賑わうようになりました。継続して何かやっていくことは大事なんだなと、思いました。

江古田の特色は、本当に何なのでしょう。3大学ありますけれど、地域の特性を何にするのか、今回は「アート」ということで括っていますけど、もっとももっと討論して、お店とか個人とかで、もっと話していきたいなと思います。本当に小竹図書館も協力してくださって、ちらしも置いていただき、ありがたいと思っています。

図書館 皆さんがおっしゃっているように、江古田という町はありませんが、このあたりには江古田のまちの芸術祭や、江古田映画祭など、江古田がつく地域活動がいっぱいあり、それもアート関係が多いのが特徴的です。皆さん、町をすごく愛してらっしゃる。今年、武蔵大学の学生さんに何回か来てもらって、デジタルアーカイブを撮ってもらったり、以前から日藝の落研に小竹寄席に来てもらったりしていますが、自由な雰囲気の人が多くて、お話が面白いなと感じています。だから、図書館ももっと学生さんを巻き込んで、いろんな事業ができればいいなと考えています。芸術を志す人にはエネルギーを感じさせる人が多いので、こういった人が将来、この国やあるいは世界で活躍するのかなって、たまに思うことがあります。芸術家の卵は、いろいろと刺激を与えてくれます。

利用者 はっきり決まっているわけではありませんが、日藝の学生さんたちで浅間神社のおみくじをデザインしたいという話が出ています。やっぱり若い方はいろいろと斬新なアイデアを持っていますね。耳を傾けていきたいなと思います。

図書館 今年デジタルアーカイブを撮ってくれた、武蔵大学の映画研究会の学生さんは、今年度、やっぱり国際ファンタステック映画祭で受賞したと聞いて、びっくりしました。気軽に手伝ってもらったんですけど(笑)。若い人にはいろんな力があるんだな、面白いなと感じます。江古田は、たとえ学生時代という一過性であっても、若い人たちが集うまちなので、ここで何らかの足跡を残してくれたらいいなと思います。ぜひ、つながっていきたいですね。他にご意見はありますか？

利用者 一つあります。要望というか、簡単な話なんですけど、昔読んだ、自分が20年前に読んだ本の履歴って、自分が欲しかったら見ることはできるんですか？

図書館 残念ながら、図書館では見るできません。

利用者 ですよね。前も頼んだら、無理だと言われて。あれはどうしてダメなんですか？

図書館 個人情報になるからです。誰が何を読んでいたは個人情報にあたるので、本を返却していただいてスキャナーをあてた時点で、履歴が消える仕組みになっています。

利用者 自分がほしいといっても、見られないのですか？

図書館 そうです。現在、何を借りているのかというリストなら出すことができます。

利用者 それはわかります。

図書館 自分が読んだ本を記憶しておくのは、結構大変ですよね。私も読書ノートをつけています。

利用者 昔の読んだ本で、どうしても題名が思い出せなくて、いろいろ検索してようやく行き着くことがあります。内容はわかっているけど、本のタイトルとか作家とか忘れちゃうと、高校時代に読んだ本で、あれあったようになって思い出しますが、行き着かないケースがあるんですよ。

図書館 私は検索サイトで記憶の断片を頼りに思いつくままキーワードを入れて、たどり着くことがあります。あるいはそういったことをカウンターでご相談いただいたら、わかる場合もあります。

利用者 やっぱりだめなんですね。自分の履歴であっても、読書歴は見られないんですね。

図書館 すみません。本をお返しいただいたときに記録は消えます。たとえばどんな色の表紙の本だったとか、覚えていらっしゃるが多ければ、探しだせる可能性も高くなります。

利用者 わかりました。ありがとうございます。

図書館 ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか？

それではそろそろお時間になりました。本日は貴重なご意見ありがとうございます。皆さまからいただいたご意見を参考に、図書館運営に役立てていきたいと思っております。今後も地域の皆さまといろいろつながっていただけると嬉しいです。愛される図書館を目指していきますので、ご支援いただけますよう、よろしくお願ひします。なお、お手数ですが、お手元のアンケートにご協力いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。